

## 効果報告レポート

【事業者名】

株式会社Z会ソリューションズ  
一般社団法人Fora

【ツール名】

Discovere Method®  
ラーニングアシスト

【ツールの機能分類】

発展的な学び

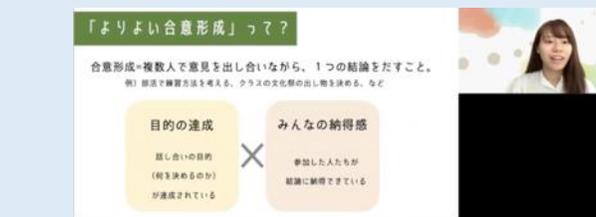
2022年2月

株式会社Z会ソリューションズ  
Discovere Method®  
(ディスカバリーメソッド)

一般社団法人Fora  
ラーニングアシスト



ラーニングアシスト利用画面



Discovere Method® (ディスカバリー メソッド)

これからの社会で求められる自己管理能力やコミュニケーション能力などの非認知能力を可視化し、振り返りを通して生徒の主体的な行動変容を促す、アセスメント+振り返りのツールです。

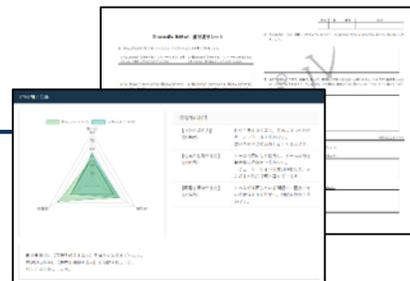
「スキルチェック」  
「セルフチェック」  
(アセスメント)

従来のアンケート形式の自己評価だけでなく、テスト形式の客観評価を作成。  
客観的なスコアで自己理解と指導が深まります。



「リフレクション」  
(振り返り)

「振り返り学習」・「経験学習」のメソッドを応用したワークを作成。  
生徒の行動が変わることに主眼を置き、行動目標を策定します。

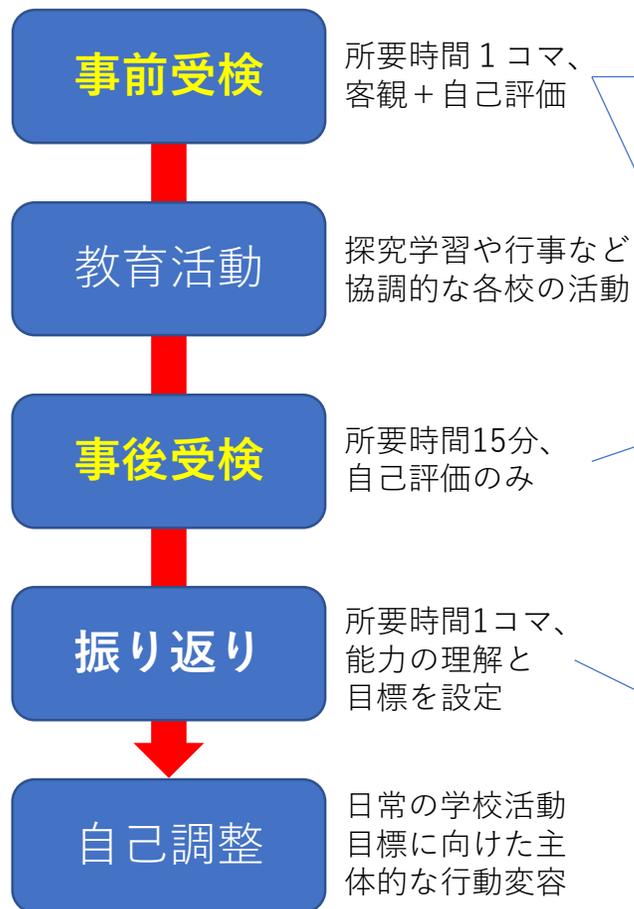


※可視化する8つの力

8つの能力	
自己管理	コミュニケーション
異文化適応	チームワークと 集団行動
リーダーシップ	対人コンフリクト管理
状況認識	意思決定と問題解決

## DiscoverE Method® (ディスカバリーメソッド)

### 使い方



### 効果

- ・年度/学期のはじめでも生徒の特徴を把握できる
- ・教育活動での目標設定ができる
- ・自己評価の変化から教育活動の効果検証ができる
- ・変化を見ることが振り返りのポイントがわかりやすくなる
- ・日ごろは注意を向けにくい学習以外の自身の行動を見つめなおせる。
- ・自己理解力やメタ認知力が身につく

### 特徴

- ・ **非認知能力についてのテスト形式のアセスメント**  
自己評価や他者評価ではない、客観的な評価
- ・ **伸ばす (= 振り返らせる) 事後アプローチが充実**  
振り返りのワークや手帳など、最も大切な振り返りの機会を多数用意しています
- ・ **CBTで手軽な受検**  
PC/タブレット/スマホで受検可能。家庭受検も。

### 料金表 (補助金セット価格)

内容	回数・単位	価格
DiscoverE Method スキルチェック セルフチェック	1人/1ID	4,400円 (税込)

## 「非認知能力の評価と育成が進まない」

### 非認知能力の評価

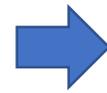
- ・ 評価の必要性がわからない
- ・ 評価の指標・観点が作れない
- ・ 先生によって意見がバラバラ
- ・ 一部の先生しかできない
- ・ 自己評価だけでは力量を見られない



定義ができず、したところで  
信ぴょう性と客観性に欠ける

### 非認知能力の育成

- ・ 推進担当の先生がいない
- ・ 先生が詳しくないので教えられない
- ・ 近隣校にも事例がない
- ・ 充てる時間が無い
- ・ 動画コンテンツでも変化がない



校内で実施をするリソース  
がなく、効果的な事例  
が少ない

## 例：玉野高等学校 2年生

※新型コロナウイルス感染症の影響を最大限考慮し、自治体・学校へのサポート対応等を原則オンラインを利用した方法で行ったため、授業風景の画像はございません。

9月

10月

11月

12月

事前アセスメント

振り返りワーク

事後アセスメント

振り返りワーク



探究活動において  
非認知能力を意識



日程：9/2~9/9 探究の時間1コマ  
 授業の流れ：先生からの説明（5分）  
 スキルチェック受検（30分）  
 セルフチェック受検（15分）計50分

日程：12/2~12/7 探究の時間1コマの一部  
 授業の流れ：先生からの説明（5分）  
 セルフチェック受検（15分）  
 計20分

理論的な裏付けがあり、JAXA等で活用されている実用的な指標をもとに評価をします。スキルチェックは客観的に評価できるツールなので評価における課題を解消します。振り返りワークでは生徒に非認知能力を理解してもらい、自身で目標設定を促します。非認知能力は指導によって身に付くものではなく、振り返り・目標設定・意識しながら協調的に活動を繰り返していくことによって身につけることが可能になります。

実践後、どのように自己評価が変わったかを可視化します。上がった部分は活動の中で自信がついたところ、下がった部分は自分の今の力を理解できたところとどちらも成長のポイントになります。振り返りながら次はどのような場面でどんなことを意識していくかを再度目標設定し、日常的な非認知能力の意識・育成を促します。

## 活用時のPC画面

### アセスメント画面

### リフレクション画面

#### スキルチェック

以下の各問題について、選択肢のうち望ましいものを1つ選んで答えてください。  
「自分だったら」などの書いていない個別の事情は考えず、社会一般を想定して回答してください。

##### 第1問

「汝(なんじ)自身を知れ」という言葉に表されるように、太古より世界中で「自分自身について知ること」の重要性が説かれてきました。「自分自身について知る」とは、どういうことですか。

- 自分がどんな人間であるか理解すること
- 自分が他人からどう見られているか理解すること
- 自分がどんな人間であるか、他人からどう見られているか理解すること
- 自分がどんな人間であるか、自分らしく生きるとはどういうことか理解すること

##### 第2問

様々な考え方をもちいた人たちがチームを組んで活動する際に、大切なことはどんなことですか。

- 自分の考え方の優れている点を自覚し、チームに貢献(こうけん)しようとする。
- 様々な考え方を活(い)かすことで、よりよい成果を上げようとする。
- 考え方の違いを明確にし、混乱を未然に防ごうとする。
- 考え方が似ている者同士で集まり、効率よく作業しようとする。

#### セルフチェック

以下の質問のそれぞれについて、3を真ん中として、どちら寄りになるのかを自分で考えて回答してください。  
→まったくあてはまらない / とてもあてはまる →

1      2      3      4      5

##### 第1問

自分とはどのような人間であるかを説明することができる。  
例：「自分がこのような行動・態度をとるのは、このような性格だからだ」

- 1    2    3    4    5

##### 第2問

自分の成功と失敗の理由を説明することができる。  
例：テストや面接がなぜうまくいったのか？ なぜうまくいかなかったのか？

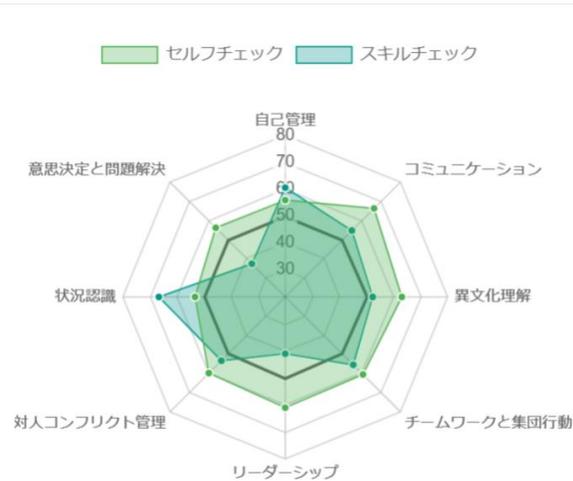
- 1    2    3    4    5

##### 第3問

自分の直した方がよいところについて、ほかの人から指摘してもらおうとする。  
例：「僕/私の発言でなにか気になることはありませんか？」

- 1    2    3    4    5

#### 8つの分野：全体



#### 振り返りシート (サンプル)

中学1年1組 生徒5さん

これから取り組む「振り返り」は自分が伸ばしたいかを自分で伸ばすための活動・方法です。簡単に説明すると次の4つの質問に答えながら行動の改善を考えていきます。

- 気になっているのはどんなこと？
- どうしたらうまくいくと思う？
- 継続的にどんな状態？
- なにが効果的である？

小さなことでもいいので、習得をせずに考えてみましょう。  
※この画面はあなたと先生だけ見ることができます。

① (初めての場合は記入不要です。) 前回の振り返り内容を確認してみましょう。感想や現時点での実行状況などを書いてみましょう。

② 今一週目になっていること/悩んでいることを考えてください。

③ ①で挙げた問題を具体的に考えてみましょう。いつ、どこで、誰と、どんなことをしているときに、どんなことが判りましたか。

9月

10月

11月

12月

説明会

報告会①

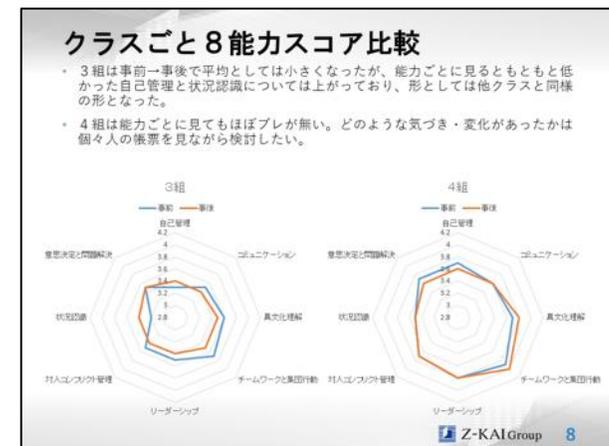
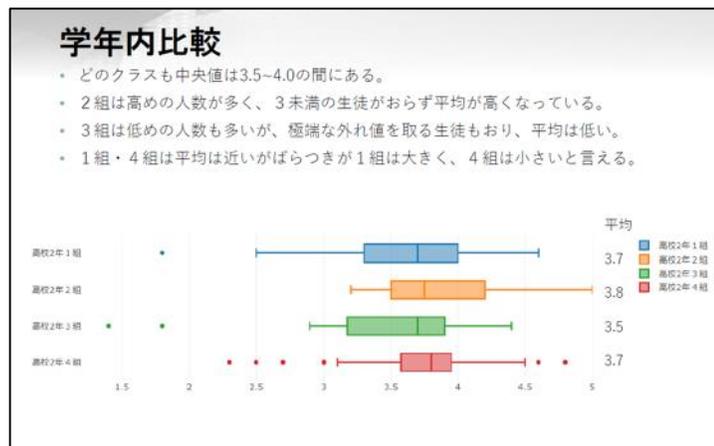
報告会②

**診断概要** 分析方法

以下の能力領域につき、分析を行いました。

3つの軸	8つの能力	内容
自己理解 自己管理能力	自己管理	自分自身のことを、どれだけわかっているか
	コミュニケーション	理解し、納得し、誤解しないように伝え合っているか
対人関係能力 協働・共創の能力	異文化対応	他者との違いが理解しがたいものであっても偏見を持たずに尊重することができるか
	チームワークと集団行動	どのようなメンバーとも真剣に向き合い、自分よりチームの団結を優先できるか
	リーダーシップ	リーダーになつたらその責任をきちんと引き受けることができるか、リーダーでなくても、チームのことを考えて行動できるか
課題設定・解決能力	対人コンフリクト管理	もめごとが起きたら、関係者全員を集め、冷静に対処できるか。
	状況認識	いかなる状況の変化も見過さないように、自分とチームの態勢を察しているか
	意思決定と問題解決	自分のやりかたを押し通すのではなく、手帳に従って問題解決に取り組んでいるか。

Z-KAI Group 8



サポートデスク対応

初回の説明会では先生方へ意義や活動の全体像および受検の手順等につきましてご説明を差し上げました。  
 報告会①では生徒やクラスの様子につきましてデータを用いながらその解釈などを共有し、振り返り活動につきまして詳細に説明しました。  
 報告会②でもスコアの変化につきまして豊富なデータを示し説明しました。

学校等教育機関向けのサポートはツール担当が常時1名および上記説明会・報告会の際は学校担当と2名で実施をいたしました。ツール担当の電話番号を共有し、緊急時に対応が可能なようにいたしました。  
 通常サービスでも学校担当への連絡はすぐに取りれるようになっています。

## ■ EdTech ツールの概要

- 導入実証を行ったEdTechツール（以下EdTechツールとする）の概要を記載



### ツール概要

動画教材、ワークシート、確認テスト一体型で授業内で活用できる学習コンテンツを提供します。

#### ラーニングアシストの特徴

##### 特徴 1

### 教員の管理負担を軽減

教材提供に加え学習課題や生徒の進捗管理の機能を加えること授業構成や配布物等が一元管理されること

##### 特徴 2

### 総合学習のコンテンツを充実させるコンテンツ提供

2022年からの総合的な探究の時間を見据え、総合学習を充実させるためのコンテンツを配信しています。

- ①それぞれのテーマごとに共通する探究的な思考そのものに焦点を当てていること
- ②合意形成場面などの実事例と即したコンテンツ提供を行うこと
- ③成果発表会に向けたコンテンツを提供しています。



ラーニングアシスト利用画面

## ■ EdTech ツールの概要

- 導入実証を行ったEdTechツール（以下EdTechツールとする）の概要を記載



### 配信コースの概要

「総合的な探究の時間」を通じた非認知能力（とりわけ協働性）の向上に焦点を当て、生徒同士の「話し合い」の目的、意義、方法を理解を促すコース（2コマ）を配信

#### ワーク①

ゼミ活動の意味を考えてみよう！

ポイントは2つ！



他者から意見をもらうことは  
自分の探究活動にとって  
どんな意味があるだろう？

他者の探究に関わることは  
自分の成長にとって  
どんな意味があるだろう？



#### 意見交換における思考の深め方

複数人でそれぞれの探究を高める場面（ゼミ活動など）を通して、他者とともに学び合い、高め合うためにどのようなことが大切なのかを考える授業です。

#### 「よりよい合意形成」って？

合意形成=複数人で意見を出し合いながら、1つの結論をだすこと。  
例) 部活で練習方法を考える、クラスの文化祭の出し物を決める、など

目的の達成

話し合いの目的  
(何を決めるのか)  
が達成されている

みんなの納得感

参加した人たちが  
結論に納得できている



#### 自由に創造的なこれからの対話術

複数人で一つの結論を導く場面（学校生活の様々な場面）で必要になる、「目的を達成し、かつ納得感のある合意形成をするための方法」について考える授業です。

## ■ 学校等教育機関の抱える課題

- 本事業で導入実証を行ったEdTechツールの強みによって解決・改善したい、導入先の学校等教育機関の児童・生徒・教職員が抱える課題



生徒自身が協働的な話し合いを理解できていない現状と、十分な時間をかけて教材開発をしたり、教員間のばらつきを抱える教職員の課題の解決を目指します。

### 児童生徒の抱える課題

#### 「話し合いの方法」が見えにくい

これまでの学校生活においても、「話し合い」の活動は行われているものの、その方法は体系的に学んだことがなく、肌感覚で行われている場面が多い。

そのため、複数人で一つの意思決定を行う「合意形成」や、相互の学び合いのためお互いの活動に意見を出し合う「意見交換」の具体的な方法について見えていない課題があります。

### 教職員の抱える課題

#### 教員の準備負担の軽減

探究学習の準備の負担が少なくない。授業準備はもちろん、ワークシート印刷や配布、課題提出や返却などが紙媒体で行われ負担になるのに加え、動画教材も視聴準備などで管理工数が掛かります。

#### 教員間でのばらつきの是正

教員間で理解のばらつきが、生徒の理解度の差に繋がる側面がありました。教材提供とその指導書のみでの解説になると、準備時間も十分につけられないなかで、クラスにより差が生まれてしまう側面があり、学校の抱える課題の一つになっています。

## ■ EdTech導入補助金2021における活用事例

- EdTech ツールを活用して学校等教育機関の課題をどのように解決したか、本事業における具体的な事例

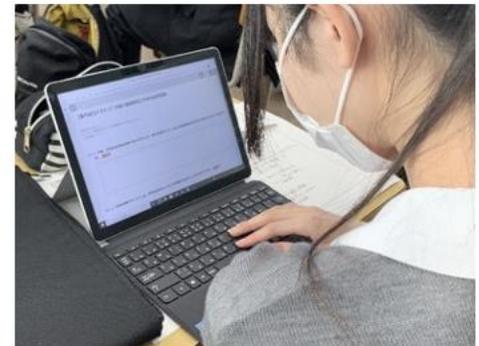
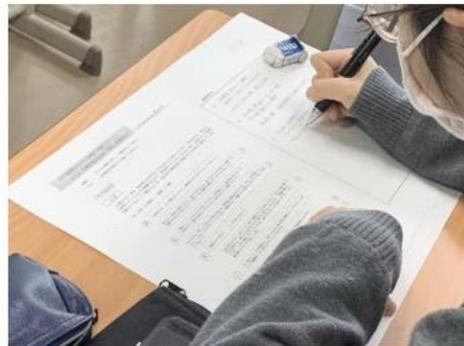


### 実施の概要

- ・ 中学校2年生の国語科の授業において、対話術の授業（45分×2コマ）を実施活用。
- ・ 授業動画の閲覧、ワークシート記入、ディスカッション、振り返りテストでの提出を実施。

### <授業内容>

- ・ 複数人で1つの合意形成を目指す話し合いにおいて、自分自身の過去の体験を振り返りつつ、話し合いの悪い事例と良い事例の分析を通して、合意形成のポイントを理解する





## ■ 補助事業において実施したサポート内容

- 導入先 学校等教育機関等に対し、  
どの様なサポートを行ったか具体的説明



EdTechツールの「技術面でのサポート」と「教育支援面でのサポート」を実施。  
技術面では、教職員の技術的負担を軽減するサポートを目指し、  
教育支援面では、授業コンテンツの理解促進や探究活動自体の定着を目指してサポートを実施。

### 技術的サポート

### 教育支援サポート

#### 初期設定オプションの実施



LMSのアカウント発行  
教材管理等の説明、実施方法の説明

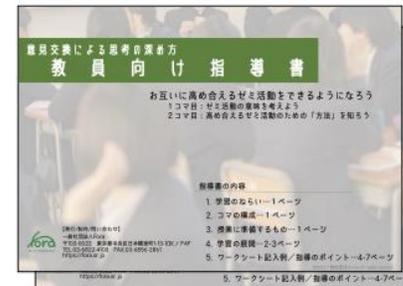
#### サポートデスク対応



合計2名でサポート対応  
共有ストレージを発行の上、  
メール対応及び電話対応を実施

操作方法、授業内容等のサポート  
対応を実施

#### 教員用の説明会の開催



教員向け指導書に基づく  
授業内容等の説明会

#### 発表会講評／探究カリキュラム支援



探究自体の促進のため、探究学  
習の意義等の講評や探究カリ  
キュラム等の検討支援を実施

学校等設置者	学校等教育機関	学年	人数
岡山県教委	玉野高等学校	2年生	139人
大阪府池田市教委	北豊島中学校	1～3年生	454人
大阪府池田市教委	ほそごう学園	7, 8年生 (中学1, 2年相当)	121人
東京都教委	大泉高校附属中学校	2年生	120人

### 定性的な分析

ヒアリングを通して分析

#### <生徒の学び方の変化>

自分のこれまでは見ることができなかった力を客観的に知ることができ、スコアが高い部分は自信につながるポイントとして、スコアが低い部分は頑張るポイントとして捉えるようになった。

時には友人と比べながら、自分の特徴を把握するような姿も見られた。

行動の変化につなげるためにはもう少し時間/振り返りの回数/生徒への説明が必要そう。

#### <教職員の働き方に及ぼした変化>

普段では気付かない生徒に関する能力を教員で共有することができ、教員間での話題が広がった。日頃の子どもたちの様子と、生徒の主観的な評価と客観的なスコアに様々なギャップがあるケースがあり、生徒理解に役立った。

アセスメントをCBTで取り組むことができ、印刷や集計といった手間はかからなかった。

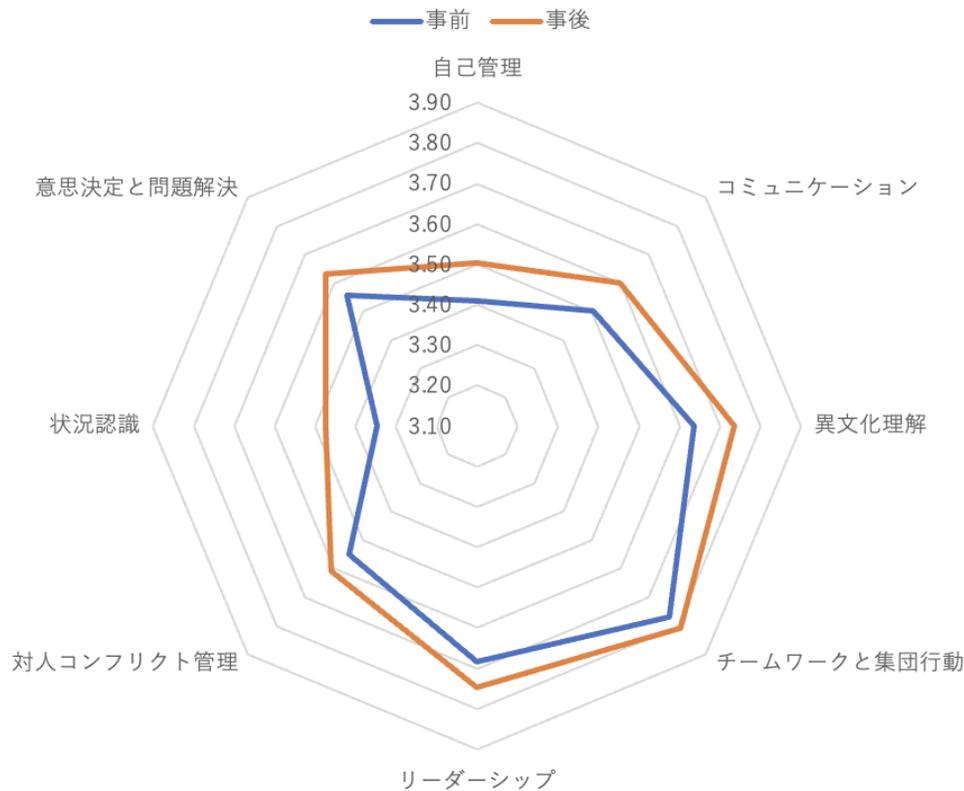
一方で非認知能力については初めてなので、取り組む前の理解や生徒への説明方法などは時間がかかり、普段の業務からすると負荷になってしまった部分はある。

定量的な分析

アセスメント結果の分析

事前から事後にかけての自己評価の変化をレーダーチャートにした。

セルフチェックスコアの変化



(全受検者平均 N=687)

<回答方法・スコア説明>

「～することができる」という形式の全60の項目それぞれにつき、「全くあてはまらない」が1・「とてもあてはまる」が5の5件法で回答しています。そのスコアを可視化する8つの分野ごとに平均を取った。

<分析・考察>

事前から事後にかけて概ねスコアとしては高くなっている。意識をしてラーニングアシストを含めた総合的な活動（探究等）に取り組むことにより自信がついたと思われる。

最も高いチームワークは日本においては常識とされる部分が多く、変化も少ない。

最も低い状況認識はマルチタスク・困難な状況という場面が想定されており、中学生は特に経験が少なく低い結果となっている。

事前から事後にかけて特に低かった自己管理と状況認識が上昇していることは、自分の課題として意識ができたからではないかと思われる。

実施後、教職員にアンケートを取りました。

< 窓口・導入担当 >

- 認知・非認知のバランス、特に非認知能力の育成が重要と考えています。非認知能力を意識することで、行動に変化が生まれ、良かったと思います。
- 生徒について新たな発見があり、良かったです。取り組みの成果指標として次年度の検討をしたいです。

▲時間数にも限りがある中、1年間のカリキュラムにいかにして組み込むかはとても難しい問題。

▲力を知れることは魅力的だが、学校で取り組むには金額が高いから。

< 授業担当 >

- セルフ・スキルの2種類の検査結果を生徒自身が興味深く受け止めており、自己の成長課題を自ら考えようとする姿が見受けられました。生徒面談では、セルフとスキルとのズレのことで話がはずみました。
- 生徒が記入した振り返りシートには素直な心情が吐露されており、本校の教育活動の指導改善に向けたヒントが数多く詰め込まれていました。

▲本校で実施する意義、目的が共有できないまま導入された。同じようなことを他にすでにやっているが検査の結果ばかりが複数たまっていき、十分に使いこなすことができない。使っていく余裕がない。

▲子供たちの内容の理解が難しく、質問数も多かったから。

▲実施後の生徒の考え方や成長が感じられないため。

なお、生徒対象のアンケートは実施しておりません。

## 課題①

### 導入担当教員と授業担当教員の乖離

先生への事後アンケートでも歴然としていたが、導入担当教員は意義・目的がはっきりしており、実証事業の取り組みに対する評価もとても高い一方で、授業担当教員にその意義目的が伝わりきっていない部分があり、結果としても新たな気づき等は感じていただけただけのもの、負担感が先行している。

## 解決策①

窓口となる先生の判断で説明会のメンバーは決めていたが、授業担当の先生は必須の参加とし、生徒への説明資料の作成等負担軽減に努める。

## 課題③

### 日常への落とし込み

先生の負担軽減のため先生の説明ありきではなく、ワークシートを用いて生徒が主体的に活用していくことを促したが、Webシステムに何度もログインするわけではないので、ワークで設定した目標がその場限りになってしまう。

## 解決策③

目標を常に生徒の身近なものに書き留め、繰り返し意識できるようにするための手帳があるとよいのではという仮説から、DiscoverEプランナーという手帳を作成した。目標を週のページに転記し、学校としては朝と帰りのHRで確認を促すフォローをする仕組み。



## 課題②

### アセスメントの取り組みやすさ

中学生でも取り組み可能なレベルで作問を行っていたが、公立中学校1・2年生では難しく感じる部分もあり、教員のサポートが必要な部分があった。

## 解決策②

作問の際は言語抵抗を下げられるよう工夫する。生徒レベルは学校によってさまざまなため、事前に質問・問題を確認していただくようにする。

## 課題④

### 導入にあたっての費用・料金

実証事業に前向きだった学校も、端的に予算において厳しさを感じている。

## 解決策②

やはり学力が優先順位の上位に来るなかで、非認知能力に取り組むための財源には限りがある。可能な限り自動化し、コストを最小限にし、価格を改定した。

内容	回数・単位	価格
DiscoverE Method®	年度内利用し放題 1人/1ID	1,100円 (税込)
プランナー(手帳)	1冊	1,100円 (税込)

# 事業者情報 株式会社Z会ソリューションズ

## 会社概要

2018年4月設立 代表取締役 網野聡一

Z会グループの理念である「最高の教育で、未来をひらく。」の実現を目指し、書店様・学校を通じてご購入いただける「速読英単語」をはじめとする学習参考書の出版事業と、教育実践の質向上を求める、学校・法人様を中心とするあらゆるお客様に最善の学習環境および学習サービスを幅広く提供する教育ソリューション事業を展開しています。

## 財務情報

	売上高 (億円)
2020年 (2021年3月期)	27.0
2019年 (2020年3月期)	23.5

## 問い合わせ窓口

**株式会社Z会ソリューションズ**

担当:事業開発室 瀬戸・與口

MAIL: [zs\\_jigyokaihatsu@ml.zkai.co.jp](mailto:zs_jigyokaihatsu@ml.zkai.co.jp)

[東京営業所] TEL:03-5296-2830

[大阪営業所] TEL:06-6195-8550

# ■ EdTechツールの活用効果にかかる分析と考察

## ● EdTech ツールによる活用効果について

### 分析と考察（定量分析）

#### 生徒の変化：概要

#### 分析方法)

- ・Z会のディスカバリーメソッドを通して、生徒向けのセルフチェックを実施。事前事後の結果比較を実施。
- ・スキルチェックによる事前事後比較は未実施のため、自己診断の変化を確認
- ・個票データの利活用が難しく、クラスごと平均データを活用し、変化量dなどを算出はしていません。

#### 検証結果)

- ・総じて自分自身はできるとの良い傾向はあるものの、学校や学年ごとのクラスごとによっては差が出ている。
- ・学年ごとでの差やクラスごとの差が出ており、その差は、プラスからマイナスまでの振り幅となっている。



#### 考察／仮説)

- ・学年単位ではなくクラス単位で、変化の方向性が大きく変わっており、非認知能力の意識においては授業コンテンツ以上に担当による学級経営やクラスの雰囲気等の要因が大きいことが示唆される。

- ・プラスに好転しているクラスは、ラーニングアシスト受講後に大きく伸びる部分があり、話し合いや学び合いの雰囲気自体があれば、協働の技法の習得により効力感を伸ばすことに繋がる事が考えられる。

- ・B校中学校3年生は、ラーニングアシストの2コマ受講だけではなく、教員主導でワークシート内容等を話し合う3コマ目を実施。

- ・過去を振り返り、事例研究を行うだけでなく、学習内容を落とし込み学んだことを今後の学校行事等でどのように活かすかなどの展望などを教員主導で行うことで、生徒の意識を伸ばすことができると考えられる。

	A校				B校				C校				D校										
	2年生				1年生				2年生				3年生				1年生			2年生			
コミュニケーション	0.1	0.2	-0.1	0	0.1	0	0.2	0	0.3	0.1	-0.1	0	0.3	0.1	0.3	0.3	-0.1	0.2	0	-0.1	0	0.4	0
異文化理解	0.2	0.2	-0.1	0.1	0	0.1	0	0.1	0.3	0.1	0	0.3	0.1	0.2	0.1	0.2	-0.1	0.5	-0.1	-0.1	0	0.3	-0.1
チームワークと集団行動	0.3	0.1	-0.2	0.1	-0.1	0.1	0.1	-0.1	0.1	0	-0.2	0.3	0.1	0.2	0.3	0.1	-0.2	0.2	-0.1	-0.1	-0.1	0.2	-0.2
リーダーシップ	0.1	-0.1	-0.1	0	0	0	0.1	-0.1	0.2	0	0	0.3	0.3	0.3	0.3	0.2	0	0.3	-0.3	-0.2	-0.1	0.4	-0.1
対人コンフリクト管理	0.2	0.1	-0.1	0	0	0	0.1	-0.2	0.1	0.1	0	0	0.2	0.3	0.1	0.3	-0.1	0.2	-0.2	-0.1	0	0.3	0.1
提供プログラム	対話術	意見交換	対話術		対話術				対話術				意見交換				対話術	対話術	対話術				

# EdTech導入補助金2021における活用事例



## ● EdTech ツールによる活用効果について 分析と考察 (定量分析)

### 生徒の変化／コンテンツ効果 (定量分析)

対話術では、半数近いの生徒が「自分自身の意見を持つ重要性」と「他者の意見を尊重する重要性」を意識。  
意見交換では、自分が意見が欲しい箇所を明確化したり、相手のそれを想像する姿勢が向上が見られる

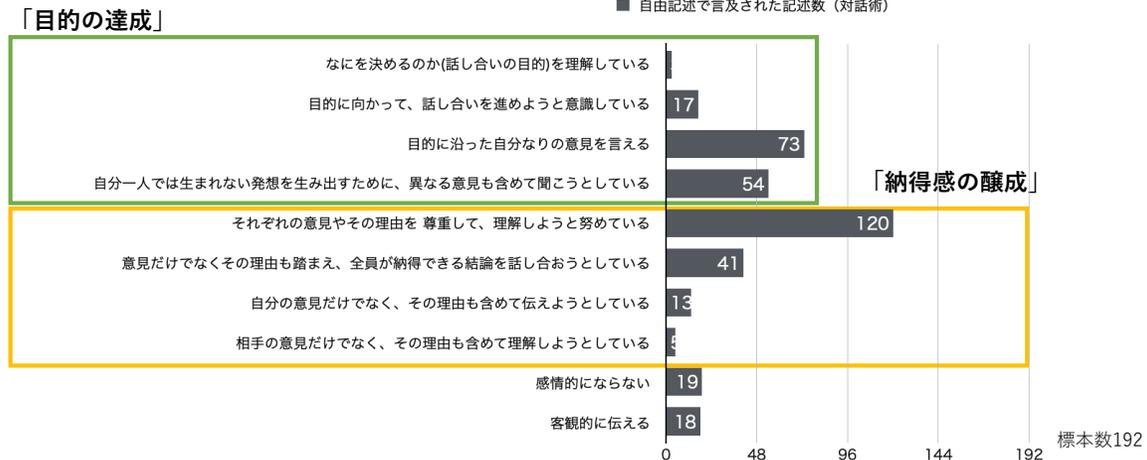
#### 分析方法)

・振り返りテストに出題した内容に対する生徒の自由記述をもとに分析。授業内にも示した評価基準等に照らして、生徒の記述を分類化して定量データを作成。授業内の内容などが、どの程度生徒の理解が定着しているのかを定量データ化して分析

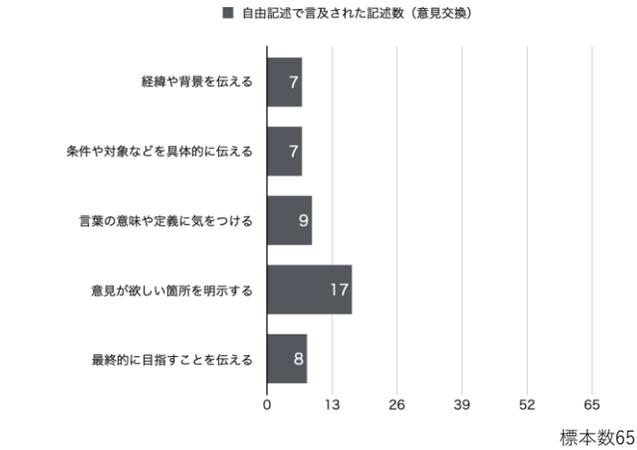
	なにかあるか の理由を 挙げてみる	自分の意見 を言ってみる	自分の意見 を言ってみる 理由を 挙げてみる	自分の意見 を言ってみる 理由を 挙げてみる 理由を 挙げてみる	自分の意見 を言ってみる 理由を 挙げてみる 理由を 挙げてみる 理由を 挙げてみる	自分の意見 を言ってみる 理由を 挙げてみる 理由を 挙げてみる 理由を 挙げてみる 理由を 挙げてみる	自分の意見 を言ってみる 理由を 挙げてみる 理由を 挙げてみる 理由を 挙げてみる 理由を 挙げてみる 理由を 挙げてみる
自分の意見を持つ重要性	3	27	27	24	100	41	17
他者の意見を尊重する重要性							
自分の意見が欲しい箇所を明確化する							
相手の意見を想像する							

分析シート・イメージ (記述内容もに分類化)

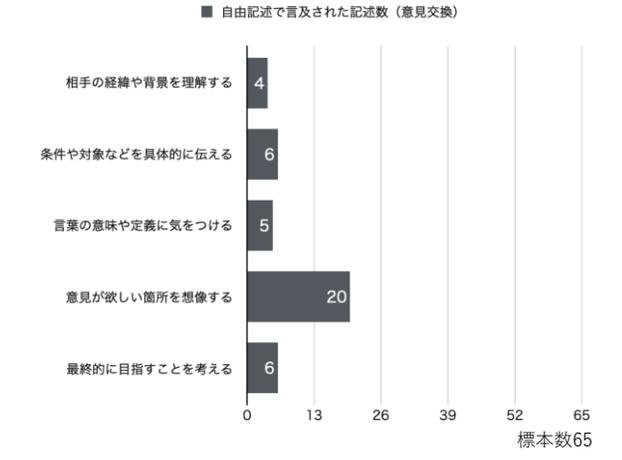
出題：今後、合意形成のための話し合いをするとき、目的を達成しつつ、みんなの納得感を生むために大切にしたいことは何ですか。



出題：ゼミ活動で自分の探究について説明したり、周りの人たちに意見を求めたりするときに、意識したいことは何ですか。



出題：ゼミ活動で他の人に質問をしたりアドバイスをしたりするときに意識したいことは何ですか。



## ● EdTech ツールによる活用効果について

### 分析と考察（定性分析）



#### 生徒の変化／コンテンツ効果（定性分析）

意見交換／対話術のコースとともに、学習目標の定着や日常的な活用へのイメージを持っている。  
一部生徒は、授業後に自主的に復習で動画を視聴しており、授業外での定着も図ることができている。

#### 意見交換コース

振り返りテストの結果から、自分自身が使う言葉を定義することの重要性や、それを踏まえ相手に求めたいアドバイスの方向性を考えることの重要性、また相手が求めるニーズを汲み取り、質問やアドバイスすることの重要性への意識づけが見られる。

#### 生徒の記述内容

1. ゼミ活動で自分の探究について説明したり、周りの人たちに意見を求めたりするときに、意識したいことは何ですか。	自分がわかっているので当たり前のように使っている言葉でも意味として様々なものをさすことのあるものなどを意識して考えていく必要があるのだと思いました なので構成を考えたりするときに細かくだれに対して、どんな研究をしていくのか、どんなことで意見を求めているのか考えてみたいと思いました。
2. ゼミ活動で他の人に質問をしたりアドバイスをしたりするときに意識したいことは何ですか。	相手が何を求めているのか自分の主観で考えるのではなく相手のニーズにこたえられるようにしたいと思いました なぜなら、食い違いが生じそれでも一度行うなど二度手間が生じたり、相手とトラブルが起こるのを防ぐことができるからです 相手のニーズに合ったことをできるように質問、アドバイスができるよう意識したいです

振り返りテストの出題

振り返りテストへの回答

#### 対話術コース

振り返りテストの結果から、他者の意見を取り入れつつ論理的に主張すること重要性、相手の背景を踏まえて納得できるような合意形成を目指すことを理解。日常の委員会や学活への応用を行う変化も見られる

#### 生徒の記述内容

1. 今後、合意形成のための話し合いをするとき、目的を達成しつつ、みんなの納得感を生むために大切にしたいことは何ですか。	自分の持っている意見からみんなにとって考えられるようにする。 自分と異なる意見でも聞く。 みんなが納得できる方向性の話し合い、論理的な主張をする。
2. 今回の授業で学んだことは、日常生活の中のどのような場面で生かすことができそうですか。	委員会活動、学活
3. 2で記入した場面において、これから具体的にどのように行動したいですか。	自分の意見だけではなく、観客側のことも考えなければならないのでそこで新しい視点を持った論理的な主張をしていきたい。 部員の意見をたくさん聞いて、その人の過去の経験や他校のアイデアを取り入れながらみんなが納得できる意見の集め方や決定をしていきたい。

振り返りテストの出題

振り返りテストへの回答

## ● EdTech ツールによる活用効果について

### 分析と考察（定性分析）



#### 教員の変化／定性分析

十分な時間をかけて教材開発をしたり、教員間のばらつきを抱える教職員の課題の解決は一定以上の効果があった  
しかし他方で、導入実施が2コマと少なく、準備時間に対する削減効果は十分ではなかった

区分	評価	教員インタビュー等から抽出	考察（原因分析／得られた示唆）
教員の準備負担の軽減	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業時間の2コマに対しては、時間対効果が特段良いわけではない。この実施形態での授業が増えれば削減は見込める</li> <li>・ 校内セキュリティーの関係で、ファイルの授受やアクセス等の許可などが必要になった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 初期設定等の時間対効果を出すためには、6コマ程度以上の導入が必要不可欠。</li> <li>・ 年度開始後の導入だと、コマ数確保や慣れの観点からも思うような効果を期待できなかった。</li> </ul>
	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業コンテンツが練られており、コンテンツ開発を行う時間を削減できた。総合だけではなく、国語科等での活用を行うことで、教科教育の負担軽減にもつながるのではないかと。</li> <li>・ 指導書や授業案があるため準備は効率的だったものの、想定以上の時間が掛かった教員もいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業コンテンツ開発やその円滑な実施は想定通りの効果を上げたことに加え、新たに教科教育と連動で、効果を高める可能性が示唆された。</li> <li>・ 意図や狙い、タイムラインなどは、事前説明や手元資料として指導書のみならず、解説動画等の検討も必要</li> </ul>
教員間でのばらつきの是正	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カリキュラムに沿うと考える導入担当の教員と、実施目的が共有しきれない現場実施担当の教員との温度差があった中でも、生徒自身の学びの記述は一定以上の狙い通りのものとなった。</li> <li>・ 2コマの授業を踏まえ、教員自身で3コマ目の振り返り授業の授業設計を行う先生もおり、積極的な教員はさらに取り組みを増やせることになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 動画教材内での指示や解説、ワークシートの提供等で、生徒向けメッセージにブレがないことは狙い通りのものとなった。</li> <li>・ 今回を通して、ラーニングアシスト授業を踏まえ、追加補足として教員が行う新たな形態が実施され、標準的な内容は動画等で伝え、生徒に合わせた変化を教員が行う役割分担が示唆された。</li> </ul>

## ■ EdTechツールを活用した児童生徒・教員のコメント感想等

### ● EdTechツール使用前後の児童・生徒・教職員等の コメント・感想等



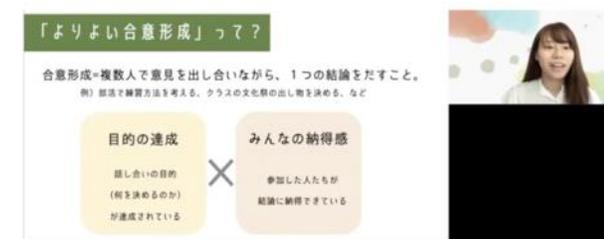
「外部講演」に求める効果と「学習教材」が持つ教育効果の双方を実現することに繋がったと思われるコメントを頂いています。

話し合いのスキルを学ぶ良い機会になりました。修学旅行というタイムリーな話題でもあり、真剣に取り組む生徒たちの様子が伺えました。

非常に練られた教材で、生徒を強く引き付けるものでした。動画を食い入るように視聴する生徒の様子も印象的でした。

分かりやすいワークシートや動画内容であったため、グループワークでは積極的に話し合っていました。

動画を見ることで、外部講師の話を聞くのと同じような状況になり、普段と違う意識で講義を受けることができている生徒がいたので良かった。



※生徒は前述の振り返りテストにのみ回答を行ったため、生徒からのアンケートは取得していません

## ● EdTech ツールの導入・運用における課題

### 導入担当者目線

年度途中でのカリキュラム調整に加え、各教員への情報共有が課題となりました。

#### <頂いた声>

- ・年度途中での実施となり、カリキュラム調整の割り当てが大変だった。
- ・授業コンテンツが練られており、トータルとしては時間削減につながってはいるが、指導書等の提供があったなかでも想定以上の時間をかけて準備した教員もいた。

#### 改善策

### カリキュラム段階からの支援サポートを実施

総合的な探究の時間のカリキュラムを話した学校担当の先生からは、カリキュラムに沿っているとの観点から次年度継続を希望する声があがっているため、カリキュラムを見据えた導入実施が検討されることが重要。

### 授業担当者目線

年度途中でのカリキュラム導入になるため、その導入意義や調整が課題となりました。

#### <頂いた声>

- ・そもそも導入目的に擦り合わせを十分に行えなかったこと。
- ・生徒の実態と合わせたり、他の取り組みとも調整が必要になったこと
- ・年度のカリキュラム途中での時間確保に追われたことなど

#### 改善策

### 年間授業計画との擦り合わせを年度前に行う

総合的な探究の時間への導入については、特にその調整が必要になるため、年度前（2月末まで）の次年度カリキュラム調整段階から導入営業を行うことが重要。



## 会社概要

名 称	一般社団法人Fora
所在地	〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-13-1 DKノア4F
設 立	2016年4月1日
役 員	代表理事：藤村 琢己 代表理事：尾川 智子 理事：太田 剛（非常勤） 理事：渡邊 伶（非常勤） 監事：朝倉 厳太郎（公認会計士）
電話番号	03-6822-4100
FAX番号	03-6856-2861
Mail	info@fora.or.jp
売上 経常利益 (2020年度)	売上高：14,659 経常利益：141 (千円)

## 本資料の問い合わせ先

法人名： 一般社団法人Fora  
住所： 〒103-0022  
東京都中央区日本橋室町1-13-1 DKノア4F  
担当： 藤村 琢己（ふじむら・たくみ）  
TEL： 03-6822-4100 FAX:03-6856-2861